

病院の行事 (6月)

院内防災訓練を行いました。

6月21日(火)、院内防災訓練が能登半島沖で大規模地震が発生したとの想定で行われ、職員約90名が参加しました。



職員は病棟から入院患者の担架での搬送、消火器の取り扱い体験、重要書類の持ち出しなどを行いました。



4階病棟では夜間に災害が発生した事を想定しての訓練も行われ、限られたスタッフによる役割を確認しました。

訓練後、院長先生より訓話として、4月の熊本地震を例に挙げられ、「能登町は災害が少なく住みよい所ですが、いつ、どこで災害が発生するかわかりません。多くの患者さんを安全に避難誘導できるように、これからも訓練を重ねて、防災に対応していただきたい」とお言葉がありました。

その後、宇出津分署宮下予防係長から講評があり、「消防設備の事前の把握に努めてほしいこと本番は過酷な状況等で避難しなければならないので、訓練の訓練にならないよう心掛けてほしいこと、また、火災のポイントによって避難経路が変わってくると思うので臨機応変に対応してほしい」と述べられました。



理念 「笑顔で心のこもった良質な医療サービスの提供」

基本方針

- ・地域住民の人々に信頼される病院を目指します
- ・よりよい接遇と思いやりのある病院を目指します
- ・質の高い医療を提供できる病院を目指します

最近の出来事 (6月)

「看護の仕事」出前講座

6月9日(木)、当院の浜上いずみ主任看護師が「看護の仕事」講師として松波中学校の2年生に医療や看護業務について講話を行いました。

浜上看護師は過去のエピソードを交えながら「9K」といわれるほど厳しい職業と認識されていると思いますが、患者さんに感謝され、時に生きる希望を与えられる大変「やりがい」のある職業であることを話されました。

また、生徒達に聴診器やパルスオキシメータの使い方など看護業務の一部も披露していました。



最近の出来事 (7月)

「看護の仕事」出前講座

6月の松波中学校に続き、7月15日(金)当院の小城亜紀子看護師が「看護の仕事」講師として小木中学校の3年生に医療や看護業務について講話を行いました。

小城看護師は祖母の通院の際に見た看護師さんに憧れ、高校生の時、自身の高校後の進路先に看護学校があるのを見て、看護師を目指されたそうです。

また、看護師の仕事の魅力として、「人の生まれる瞬間」にも、医師や家族も看取りに間に合わない場合が多い、「人生の最後の瞬間」の両方に立ち会える仕事であること。亡くなられる方々が、どんな家族に囲まれ、どんな風な生活をしていて、など全部わかる貴重な場面に立ち会う職業であることを話されました。

生徒達は真剣な表情で話を聞いている様子で、将来の進路選びの一助になる講話となりました。



最近の出来事 (7月)

「高齢者夜光反射シール貼付キャンペーン」

7月25日(月)、当院の正面玄関で、高齢者の交通事故抑止対策として、能登町交通安全協会会員らが、反射シールの配布、貼付を行いました。



病院の行事（7月・8月）

職場体験が行われました。

7月29日から8月3日にかけて能都中、松波中学校の生徒たちが当院にて「職場体験」を行いました。

また、8月3日から5日にかけての3日間は、飯田高校の生徒たちが、看護業務及びリハビリ業務のインターンシップを行いました。



生徒たちは看護の仕事や、施設の説明を受けた後、脈拍や血圧の測定を行ったり、患者さんの足浴や洗髪を手伝うなど、実際の業務を体験しました。どの生徒たちも患者さんに優しい笑顔で接しており、医療の現場における心構えをしっかりと持ちながら体験に臨んでくれていたようでした。



病院の行事（8月）

院内感染予防対策研修会を行いました。

8月2日（火）、4日（木）のそれぞれ午後5時30分から、職員対象の院内感染予防対策研修会を開催しました。

今回の研修会は、「感染性胃腸炎と食中毒対策」をテーマとし、消毒剤等の製造会社の方を講師にお招きして行われました。

食中毒の中でも、平成27年度ベースでワースト3位すべてが感染性胃腸炎であり特にノロウイルスが患者数14,876人と2位のカンピロバクターの患者数2,089人を大きく引き離す非常に感染力の強いウイルスである事がわかりました。



食中毒予防の3原則として、①医療従事者の手を介した伝播、②不適切な食事・食器類の管理③排泄物、嘔吐物等を介した伝播を予防すること。そのためには、手指衛生を対策の基本として配膳後の食事や牛乳等を長時間放置しないこと。また、排泄物や嘔吐物は次亜塩素酸ナトリウムを用いて適切に処理すること。PPEの着脱を適切に行うこと等が重要な対策だとわかりました。

病院の行事（7月）

ストレス対策の研修を行いました。

7月11日（月）、メンタルヘルス研修会を職員向けに行いました。

医療サービス推進室の本谷保健師が講師をされ、アロマテラピーによるリフレッシュ法を中心に、リラックスした雰囲気の中で、アロマテラピーの効果や種類について説明をうけました。

机には様々なアロマテラピーグッズが並べられ、直接香りをかいだり手に付けてみたり、ハーブティーの試飲もあり、日ごろの緊張を解きほぐしてくれたようです。



最近の出来事（8月）

CT（全身用X線コンピュータ断層撮影装置）の更新を行いました。

従来機より撮影時間が短縮され、放射線被ばく量も半分程度となり、より鮮明な画像撮影を行えます。

今後も充実した医療の為、適切な医療機器の更新を行っていきます。



看護学生コンクール「読売新聞社賞」を受賞しました!!

第7回全国看護学生作文コンクールの表彰式が6月4日、東京都であり、当院の中野綾看護師が「読売新聞社賞」を受賞しました。

全国の看護学生及び看護師国家試験受験予定者を対象に『私と看護』をテーマに作文の募集が行われ、2,200作品を超える応募の中から優秀賞として選ばれたものです。



看護学生時代、実習中に受け持った交通事故の患者さんとの関わりから、患者さんの気持ちに寄り添う大切さに気づき、その思いを文に認められたそうです。

受賞作『思いに寄り添うということ』は、特定非営利活動法人 国際看護支援センター <http://npoinsc.jp/composition/07/>より読むことができます。